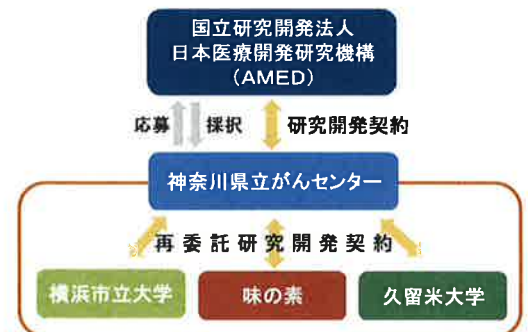


2019年11月13日

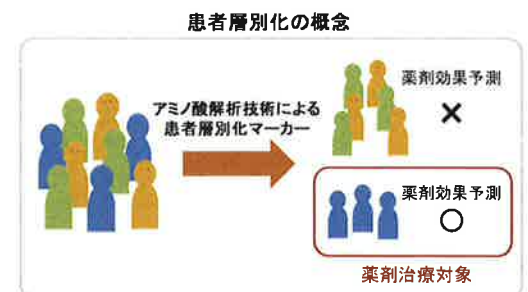
## 味の素(株)がアミノ酸解析技術で創薬基盤技術開発事業に参画 ～神奈川県立がんセンターと次世代治療・診断に向けた研究開発契約を締結～

味の素株式会社（社長：西井孝明 本社：東京都中央区）は、地域独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター（総長：中山治彦 所在地：神奈川県横浜市、以下「神奈川県立がんセンター」）と、がんの次世代治療・診断における共同研究の実施に合意し、2019年11月12日に再委託研究開発契約を締結しました。

本研究は、国立研究開発法人 日本医療開発研究機構（Japan Agency for Medical Research and Development、以下「AMED」）の平成31年（令和元年）度「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（患者層別化<sup>※1</sup>）マーカー探索技術の開発」に係る公募に採択され、神奈川県立がんセンターを代表機関として実施するものです。当社は同研究に公立大学法人 横浜市立大学（以下、「横浜市立大学」と）と学校法人 久留米大学（以下、「久留米大学」と）と共に参画し、アミノ酸プロファイル解析技術を活用したがん治療の患者層別化マーカー探索に関する研究を推進します。



がん患者の治療においては、副作用が少なく、かつ効果が期待できる治療法を選択するための検査方法として、薬剤の効果を予測する「層別化技術」の開発が喫緊の課題となっています。より適切な治療法の選択を可能にすることは、患者の身体的負担の軽減や医療費の削減にもつながります。現在、臨床で使用されている免疫チェックポイント阻害剤<sup>※2</sup>の患者層別化技術は、主に腫瘍組織における標的分子等の解析によるものですが、治療効果や副作用の予測という点において途上段階にあります。今後疾患の状態に応じ、さらに適切な治療を行うためには、効果を予測するマーカーとして、より精度の高い解析技術の開発が必要とされています。



こうした状況の下、当社は本研究において、血液中のアミノ酸を指標とし、マーカーとして実用化することを目的とした患者層別化技術の開発を行います。アミノ酸はたんぱく質や核酸などの生体成分やエネルギー源として利用される栄養素であり、がん細胞の増殖やがん免疫微小環境<sup>※3</sup>の制御にも必須であるため、当社の「アミノインデックス事業」で培った知見と技術の応用により、個人差に基づく奏功性の高い精密医療の実現にも貢献するものと考えます。本研究の具体的な取り組みとしては、肺がん患者の血中アミノ酸プロファイルに関するデータ解析、バイオマーカーとしての有用性の検証、プロファイル変化のメカニズム解明などがあり、神奈川県立がんセンター総括の下、同センター、横浜市立大学、久留米大学および当社の産学連携体制で役割が分担され、当社はアミノ酸プロファイル解析や新たな分析法の開発を行います。

当社は今後も「アミノインデックス技術」の活用により、がんや生活習慣病を含めた様々な疾病の予防や早期発見につながる検査の研究開発を進めると共に、長年の研究で培ったアミノ酸に関する技術を通じて開発した素材や製品、サービスの提供により、生活者の快適な生活の実現と健康寿命の延伸に貢献します。

（なお、本件が2019年度業績に与える影響は軽微です。）

- ※1) たくさんのデータを、そのデータから得られた特徴を利用することによってグループ分けすること。
- ※2) 免疫本来の力を回復させてがんを治療する免疫療法剤。
- ※3) がん細胞によって形成される局所環境。血管新生の促進など正常組織とは異なる生体反応が認められます。

当社は、長年の研究で培ったアミノ酸に関する技術を活用して開発した素材や製品、サービスの提供を通じて、人々の快適な生活の実現に貢献します。今後も「アミノインデックス技術」を応用して、がんや生活習慣病を含めた様々な疾病の予防や早期発見につながる検査の研究開発を進めます。

#### <参考資料>

##### ・地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター

昭和38年に神奈川県立成人病センターとして、主にがんを中心に高血圧症、糖尿病などの成人病を対象に診療を行う中枢施設として発足しました。その後社会環境の変化と人口構造の高齢化を踏まえ、昭和61年に神奈川県立がんセンターと改編し、悪性腫瘍の診断や進行癌の集学的治療を行うなど、都道府県がん診療連携拠点病院として、神奈川県内のがん医療の中心的な役割を担っている施設となっています。また、臨床研究所を付置し、がんの発生原因に関する基礎研究と併行し、臨床部門と緊密な連携のもとに、がんの診断方法、治療法の開発など臨床に直結した研究を行っています。

##### ・味の素株式会社

味の素グループは、食とアミノ酸の分野で、先端バイオ・ファイン技術が先導する、確かなグローバル・スペシャリティカンパニーを目指しています。私たちは、“Eat Well, Live Well.”をコーポレートメッセージに、アミノ酸が持つ可能性を科学的に追求することで、事業を通じて世界中の人々のウェルネスに貢献し、地域や社会とともに価値を創出することで、さらなる成長を実現してまいります。

味の素グループの2018年度の売上高は1兆1,274億円。世界35の国・地域を拠点に置き、商品を販売している国・地域は130以上にのぼります(2019年現在)。詳しくは、[www.ajinomoto.com](http://www.ajinomoto.com)をご覧ください。

#### <再委託研究開発契約書 調印式>



地方独立行政法人神奈川県立病院機構  
神奈川県立がんセンター総長  
中山治彦

味の素株式会社  
代表取締役社長  
西井孝明